

巻頭言：日本人とアフリカ人

著者	重光 晶
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アフリカレポート
発行年	1987-09
出版者	アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00008737

日本人とアフリカ人——・重 光 晶

(元駐ナイジェリア大使)

西アフリカのナイジェリアに3年半を過ごしたのは、もう15年も前のことになりました。尤もその後もアフリカの友人が時々東京に訪ねて来たり、また愚妻がアフリカ関係の婦人会をやっている関係もあって、アフリカの人々との接触は今も続いています。

私は、外交官として色々な国の人々と接触して来ましたが、アフリカ人、殊にサハラ以南のアフリカの人々は、この地球上に住む諸民族のうちで、日本人と最も異なった自然条件と歴史の下で、幾千年を生きて来た人達のように思えます。3年半のアフリカの生活はそのことをつくづく私に教えて呉れました。しかし人間は、如何に違っていても、実は相違点よりも、共通点の方が多いものです。私は、アフリカ人に共通する開放的な性格には強く印象付けられました。

他人との相違点を越えて、共通点に到達することは、私にとっても決して簡単なことではありません。われわれが常に自分の尺度で他人を計り、批判したり、感心したりしているだけでは、人を理解したことにはなりません。先ず自分自身の尺度を捨てて掛からなければ、他人の尺度には到達できません。他人を理解することも出来ないでしょう。

われわれの後に続く世代が、二十一世紀を生きて行くうちに、世界は段々ひとつになって行くでしょう。そしてこの過程は世界中の人々にとって、苦難に満ち満ちた道と思われませんが、こうした過程のうちで、われわれ日本人が、自らを謙虚に持し、自らを無にして、今のところわれわれと最も違ったアフリカ人と接する時、日本の「国際化」も少しずつ進んで行くのではないのでしょうか。

「国際化」とは畢竟「国」と「国」との関係が進んで行くだけの問題ではなく、「人」と「人」との関係が国境を越えて拡がって行くことを意味するのですから。